

第十六回「電気のあるさとじまん市」を開催

「第十六回電気のあるさとじまん市」を平成十七年十一月十八日(金)から二十日(日)までの三日間、千葉市の幕張メッセで開催しました。「電気のあるさとじまん市」は、電源地域の特産品の販路や交流人口の拡大を図り、産業振興を支援することを目的として毎年開催しているものです。



威勢のよい声が響き、お客さまが立ち止まって特産品を買ったり試食する光景が見受けられました。来場したお客さまから

初日の開会式では、はじめに(財)電源地域振興センターの山本理事長が主催者を代表してあいさつ。その後、小林経済産業大臣政務官、市町村代表の福島県富岡町の遠藤町長をはじめとする来賓の方々の祝辞があり、最後に関係者によるテープカットが行われ、三日間にわたるじまん市の幕が切つて落とされました。



今年是全国から二百十九の市町村が出展しました。会場では、随所で出展者による「いらっしやい! どうですか」の

「日本全国の特産品に触れることができ本当に楽しい」という声が聞かれた一方、出展者からは「地域の自慢を全国にPRする絶好の機会。楽しみながら今後のステップにつなげられれば」などといった声が聞かれました。

「じまんステージ」では、各地の郷土芸能が披露され、会場の拍手の大きさに審査の結果、岩手県胆沢町の屋白大黒舞保存会が最優秀賞を受賞しました。また、各市町村の魅力を地元の方が紹介する「ふるさと逸品・観どころじまんPRステージ」も連日行われました。



じまん市大賞を受賞された伊佐名物 焼酎豚本舗の代表者 成松さんと大口市役所地域振興課主査の橋本欣也さん
伊佐の焼酎豚

展示で紹介。匠の技術や演奏を見ることのできる実演コーナーを併設し、特に岩手県胆沢町の「大白福餅つき」は、見る人を圧倒しました。また、十二市町村による「じまんの温泉足湯めぐり」、各地域自慢の専門家・工芸師の指導で、うどん・そば打ち・絵付けなどが体験できる「体験厨房・工房」が来場者の人気を集めていました。

「じまん市大賞」は鹿児島県大口市の「伊佐の焼酎豚」に決定

最終日には恒例の「じまん市大賞」

の発表が行われました。まず、過去四回の大賞受賞者から「受賞後、商談に弾みがつき、売り上げも格段に上昇した」「何より自分の商品に自信を持てたことが大きい」との言葉を頂いた後、今年の発表が行われ、四十六産品のエントリーの中から鹿児島県大口市の「伊佐の焼酎豚」が大賞に選ばれました。これを受け代表の成松秀子さんからは「試行錯誤を繰り返してようやくのデビュー戦となりましたが、このような大きな賞を頂き大変うれしい。身が引き締まる思いです。地元の素材を使った製造方法に今後もこだわっていきたい」と喜びの声が聞かれました。



来場150万人目となった徳山さんご家族

期間中は約十万人の入場者
累計来場者が百五十万人を達成

期間中は、約十万人のお客さまにご来場いただき、会場は終日にぎわいました。また、東京都江東区から来場した徳山さんご家族が累計来場者百五十万人目となり、山本理事長から記念品が贈呈されました。

あなたの地域の担い手づくり 最近の研修事業から

「第十六回電気のあるさとじまん市」(幕張メッセにて開催)に合わせ、毎年の恒例となっている(財)電源地域振興センター主催の研修No.1「電源市町村トップセミナー」、No.16「地域特性を活かした特産品開発の考え方・進め方(電気のあるさとじまん市に学ぶ)」が、隣接のワールドビジネスガーデンの各会場において開催されました。

「電源市町村トップセミナー」は、電源地域市長村長や助役、議長など約二十人が参加し、十一月十七日(木)に開催されました。



(資源)に誇りを持つとうく三つのちえ(知恵・地恵・治恵)が大切となる」という演題で講演し、「いま、なぜ地域価値が大

切なのか」を切り口に、地域資産を未来資源に変えた栃木県足利市、滋賀県長浜市、フランス・パリの先進事例などを紹介しながらその発見方法や創造方法を説明しました。そして最後に「シティープライドがエネルギーの原点。みんなが「ちえ」を出し合い、幸せな地域の世界モデルとなるようなまちづくりができるよう願っている」と締めくくりました。



例研究では、静岡県中川根町で、農家主婦十四

「地域特性を活かした特産品開発の考え方・進め方(電気のあるさとじまん市に学ぶ)」は、十一月十七日(木)・十八日(金)の二日間、定員六十名を上回る参加者を迎えて実施されました。

初日の講義では、ブランド・コンサルタント 薫習房代表の二村宏志さんが「地域ブランドと特産品」という演題で講演しました。「特産品は企業発のプロダクトでは持ち得ない地域性を強みに、その違いを発見し、地域ブランドとして育てあげていくことが大切」とし、三重県伊勢市のおかげ横丁や、ギョーザの町として地域ブランドを確立させた栃木県宇都宮市などの先進事例を取り上げ、地域性の見つけ方、育て方などについて説明しました。

続いて事例研究では、静岡県中川根町で、農家主婦十四

の発表が行われました。まず、過去四回の大賞受賞者から「受賞後、商談に弾みがつき、売り上げも格段に上昇した」「何より自分の商品に自信を持てたことが大きい」との言葉を頂いた後、今年の発表が行われ、四十六産品のエントリーの中から鹿児島県大口市の「伊佐の焼酎豚」が大賞に選ばれました。これを受け代表の成松秀子さんからは「試行錯誤を繰り返してようやくのデビュー戦となりましたが、このような大きな賞を頂き大変うれしい。身が引き締まる思いです。地元の素材を使った製造方法に今後もこだわっていきたい」と喜びの声が聞かれました。

期間中は、約十万人のお客さまにご来場いただき、会場は終日にぎわいました。また、東京都江東区から来場した徳山さんご家族が累計来場者百五十万人目となり、山本理事長から記念品が贈呈されました。

人が自力で開設した特産品販売所「四季の里」の取り組みについて、代表の藤森文江さんが、創業のいきさつから、総売上を年間一億二千万円まで伸ばしたノウハウまで紹介し、「アイデアが浮かんだらまずやってみる行動力が大切」と力強い言葉で締めくくりました。

初日の最後には、元(株)高島屋関東事業部MD統括本部 兼 担当バイヤーの渡辺久正さんが「特産品はナンバーワンではなく、オンリーワンを作り上げるのが求められている」と、岩手県前沢市の前沢牛や山形県東根市のさくらんぼなどの事例を紹介し、最後に「お客様への思いやり・気遣いが消費者の心を打つ」と述べました。

二日目は、午前中に(有)五十嵐ソーシャル・マーケティング代表取締役の五十嵐宜子さんによる「電気のあるさとじまん市」視察のポイントを踏まえ、各自会場に赴き、約五千品の特産品視察を行いました。午後は、渡辺さんと五十嵐さんによるグループ別参加者討論会が行われ、特産品開発と流通について実りの多い研修が実施されました。

「エネルギープラザ2005年度」開催のお知らせ

平成十八年一月二十六日(木)と二十七日(金)の二日間、東京都内において「エネルギープラザ2005年度」を開催します。

エネルギープラザは、電源立地を契機とした地域振興に関する実践力を高めることを目的として、全国の電源地域の方々をお招きし、地域振興事業検討会や地域間交流等を経済産業省との共催で実施するものです。

今回のテーマは「地域力ー内発と連携」。地域資源を内から見直し、利活用によって地域振興につなげるとともに、地域内外との連携も視野に入れ、全国の地域振興の先進的な事例から具体的手法などを実践的に学びます。

初日は開会式の後、日本政策投資銀行地域企画部参事役の藻谷浩介氏が「今、各地にみる地域振興のうねり」と題して講演を行い、二日目には地域振興事業検討会(三検討会九分科会)を実施します。詳細は当センターのホームページ

実施日	1月26日(木)	1月27日(金)
場 所	こまばエミナース(目黒区大橋)	こまばエミナース(目黒区大橋) フォーラムエイト(渋谷区道玄坂)
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ●開会式(17:10~17:30) ●講演会(17:45~18:45) ●交流会(19:00~20:00) (交流会は財電源地域振興センター主催) 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域振興事業検討会(9:30~16:30) 地域資源の再開発検討会(こまばエミナース) 分科会1 観光振興における地域資源開発セミナー 分科会2 地域資源を生かした特産品開発ゼミ 分科会3 特産品のブランド化ゼミ 地域事業経営検討会(こまばエミナース) 分科会1 コミュニティビジネスセミナー 分科会2 協働による地域経営活性化ゼミ 分科会3 合併を契機とした地域経営ゼミ 地域産業活性化検討会(フォーラムエイト) 分科会1 循環型まちづくり検討セミナー 分科会2 地場産業活性化事業ゼミ 分科会3 ものづくり活性化支援ゼミ

ページをご覧ください。

<http://www.dengen.or.jp/>

■お問い合わせ先

財電源地域振興センター 広報課

03-5562-9730

e-mail: kouhou@div.dengen.or.jp

ふるさと じまん そばにあらず、うどんにあらず 麺の中の逸品 もちむぎ麺

兵庫県 福崎町

福崎町は兵庫県の中央部よりやや南側に位置しており、中国縦貫自動車道と播但連絡道路とが交差する広域交通の要衝として発展しています。また民俗学の父、柳田國男生誕の地としても知られています。

ご紹介する「もちむぎ麺」は町の農家が育てた大麦の「もち麦」を原料にして試行錯誤の末作り上げた特産品です。そばにあらず、うどんにあらずの独特の風味は多くの人々の舌をとらえ、静かなブームとなつていきます。ベータグルカンが多く含まれ、美容と健康によいとされています。夏には冷やしてのど越しを楽しみ、冬にはお鍋に入れてうどんすき風にとろんなバリエーションが楽しめます。

また福崎町には、もちむぎ麺のすべてが分かる特産館「もちむぎのやかた」があります。レストランを備え、もちむぎ特産品の展示・販売を行っています。



「もちむぎのやかた」で人気の「五種麺」



特産品「もちむぎ麺」

■お問い合わせ先

福崎町役場 産業課

0790-22-0560

<http://www.town.fukusaki.hyogo.jp/>

もちむぎのやかた

0790-23-1500

<http://www.mochimugi.jp/>

Vol.1 読者の声から

●「地域には必ずと言っていいほどいい芽があります」という Key Person のことばに感動した。

(山口県長門市 女性)

●阿久根市の事例では、地域資源の文目にこだわって、商品開発を進めたのがよかったです。(福島県福島市 男性)

(住民出資の「道の駅」を

紹介した美山町の事例は、地域色を生かし、かつ個人商店との競合を避けるという点に興味を持ちました。

(熊本県荒尾市 女性)

市町村名	氏名	当選月日
神栖市(茨城)	保立 一男	11月 6日
呉市(広島)	小村 和年	11月 6日
会津美里町(福島)	渡部 英敏	11月 8日
一戸町(岩手)	稲葉 暉	11月 8日
山川町(鹿児島)	東 孝一郎	11月 8日
上毛町(福岡)	鶴田 忠良	11月 8日
猿払村(北海道)	森 和正	11月12日
福島市(福島)	瀬戸 孝則	11月13日
山口市(山口)	渡辺 純忠	11月13日
にかほ市(秋田)	横山 忠長	11月13日
酒田市(山形)	阿部 寿一	11月13日
鉾田市(茨城)	鬼沢 保平	11月13日
高岡市(富山)	橋 慶一郎	11月13日
熊野市(三重)	河上 敢二	11月13日
たつの市(兵庫)	西田 正則	11月13日
いちき串木野市(鹿児島)	田畑 誠一	11月13日
片品村(群馬)	千明 金造	11月13日
長和町(長野)	羽田 健一郎	11月13日
荻田町(福岡)	吉廣 啓子	11月13日
水巻町(福岡)	矢野 繁敏	11月13日
紀北町(三重)	奥山 始郎	11月13日
京丹波町(京都)	松原 茂樹	11月20日
双葉町(福島)	井戸川 克隆	11月20日
西和賀町(岩手)	高橋 繁	11月20日
真室川町(山形)	井上 薫	11月20日
神河町(兵庫)	足立 理秋	11月22日
射水市(富山)	分家 静男	11月27日
甲州市(山梨)	田辺 篤	11月27日
霧島市(鹿児島)	前田 終止	11月27日
南さつま市(鹿児島)	川野 信男	11月27日
広野町(福島)	山田 基星	11月27日
湯沢町(新潟)	上村 清隆	11月27日
木曾町(長野)	田中 勝巳	11月27日

読者プレゼント

今号の「電源地域のサクセスストーリー」で紹介した秋田県八森町の魚醬「鍋通亭しよつる」(百二十瓶と瓶二本一箱)を、取材先のご厚意により五名様にごプレゼントいたします。ご感想などをご記入の上、一月三十一日(消印有効)までにお送りください。なお、当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。



【編集後記】

地域振興と一口に言っても、いろいろな切り口や方策、施策があるでしょう。

例えば地域の特産品開発ひとつをとっても、地元の人々が普段何の気なしに見ているもの、作っているもの、使っているものなどが、他の地域の人から見たらとてもユニークですばらしいものがたくさんあるはず。そのようなものにいかに気づき、地域独自の活用方策を考え、そしてそれを実践していくことができるかがとても大切だと、つくづく感じています。

「電気のふるさと」では、自分たちの地域を何とか元氣付けたいと、日々頑張っている皆様へ、全国各地の様々な実践事例を紹介し、少しでも皆様方の活動の糧にしたいだけだと願っております。

うれしいことに、前号でご紹介した鹿児島県阿久根市や京都府美山町の事例に対し多くの方々から、興味を持った、参考になったとのアンケートハガキをいただきました。本当にありがとうございます。

編集室一同、今後とも皆様のお声を大切にしながら、本誌が地域振興のヒントがたくさん詰まった誌面になるよう頑張っております。(S)

人事往来

●電源立地都道府県知事(10月~11月選挙分)

県名	氏名	当選月日
宮城	村井 嘉浩	10月23日
広島	藤田 雄山	11月 6日

●電源地域市町村首長(10月~11月選挙分)

市町村名	氏名	当選月日
一関市(岩手)	浅井 東平衛	10月 2日
八幡平市(岩手)	田村 正彦	10月 2日
胎内市(新潟)	吉田 和夫	10月 2日
むつ市(青森)	杉山 肅	10月 2日
日和佐町(徳島)	藤井 格	10月 2日
高原町(宮崎)	日高 光浩	10月 2日
上市町(富山)	伊東 尚志	10月 4日
ニセコ町(北海道)	佐藤 隆一	10月 9日
岬町(大阪)	石田 正弘	10月 9日
釧路市(北海道)	伊東 良孝	10月16日
遠野市(岩手)	本田 敏秋	10月16日
鶴岡市(山形)	塚塚 陽一	10月16日
川根本町(静岡)	杉山 嘉英	10月16日
浜田市(島根)	宇津 徹男	10月16日
江迎町(長崎)	亀山 春光	10月16日
三朝町(鳥取)	吉田 秀光	10月18日
遠軽町(北海道)	北川 健司	10月18日
八雲町(北海道)	川代 義夫	10月18日
七ヶ宿町(宮城)	高橋 國雄	10月18日
横手市(秋田)	五十嵐 忠悦	10月23日
安曇野市(長野)	平林 伊三郎	10月23日
佐賀市(佐賀)	秀島 敏行	10月23日
設楽町(愛知)	加藤 和年	10月23日
愛川町(神奈川)	山田 登美夫	10月23日
みなかみ町(群馬)	鈴木 和雄	10月30日
吉賀町(島根)	中谷 勝	10月30日
津和野町(島根)	中島 巖	10月30日
仙北市(秋田)	石黒 直次	10月30日
由布市(大分)	首藤 奉文	10月30日
新宮市(和歌山)	佐藤 春陽	10月30日
上越市(新潟)	木浦 正幸	10月30日
大田市(島根)	竹腰 創一	10月30日
牧之原市(静岡)	西原 茂樹	10月30日
加賀市(石川)	大幸 甚	10月30日
長野市(長野)	鷲澤 正一	10月30日
都留市(山梨)	小林 義光	11月 6日
平戸市(長崎)	白濱 信	11月 6日
越前市(福井)	奈良 俊幸	11月 6日